

令和2年度日本教職大学院協会研究大会 「パネルディスカッション」概要

日 時：令和2年12月6日（日）11：05～12：10

場 所：ウェブ会議システム「Zoom（ウェビナー）」 ※当日は質疑応答のみ

テーマ：「拡大期における教職大学院と教育委員会との連携の課題と取組」

内 容：

平成31年3月に実施した会員大学への質問紙調査結果及び近年の教育制度改革を踏まえた全国化・拡大期における教職大学院と教育委員会の連携の課題を提示し、事例大学のパネリストから「取組に関わる教職大学院・教育委員会の連携の実際と課題」等を報告いただく。

パネリスト：

安藤 福光（教育委員会等連携委員会委員）

菅原 至（教育委員会等連携委員会委員）

紅林 伸幸（教育委員会等連携委員会委員）

大林 正史（教育委員会等連携委員会委員）

コーディネーター兼パネリスト：

大野 裕己（教育委員会等連携委員会座長）

【発表動画・資料掲載期間】

11月16日（月）～12月6日（日）

【質問受付期間】

11月16日（月）～11月27日（金）12時00分

パネリスト プロフィール

大野 裕己 氏

(おおの やすき 滋賀大学教育学系教授)

九州大学大学院人間環境学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。大阪教育大学専任講師・准教授、兵庫教育大学准教授・教授を経て、現職。教職員支援機構客員フェロー。主たる研究領域は学校経営・教育経営。著書に『Withコロナの新しい学校経営様式』（共編著、ジダイ社、2020年）、『学校改善マネジメント』（共著、ミネルヴァ書房）などがある。

安藤 福光 氏

(あんどう よしみつ 兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授)

筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科学校教育学専攻単位取得大学。武蔵丘短期大学専任講師を経て、現職。専門分野はカリキュラム研究。現在の研究テーマは、中高一貫教育のカリキュラム研究、高等学校における越境による共創のカリキュラム研究。

菅原 至 氏

(すがわら いたる 上越教育大学教職大学院教授)

宮城県内の中学校等で34年間勤務。その間、上越教育大学大学院修士課程修了。2016年より現職（現代教育課題研究コース・発達と教育連携領域）、日本学校教育学会理事、主な著書・論文等『学習社会としての学校（シリーズ子どもと教育の社会学1）』（分担執筆「社会的世界としての授業」）教育出版、「分散型リーダーシップ実践に着目した学校改善に関する研究（日本学校教育学会編『学校教育研究』第31号）」等

紅林 伸幸 氏

(くればやし のぶゆき 常葉大学教職大学院初等教育高度実践研究科教授)

東京大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。東京大学教育学部比較教育社会学コース助手、滋賀大学教育学部講師、准教授を経て、現職。専門分野は教育社会学。現在は、教師文化・同僚性・教師教育等の教師研究や、道徳や総合的な学習の時間を中心とした学校カリキュラム研究を進めるとともに、新しい実践的教育研究モデルの構築を目指して研究活動に取り組んでいる。

大林 正史 氏

(おおばやし まさふみ 鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授)

筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻修了。博士（教育学）。鳴門教育大学教職大学院 学校づくりマネジメントコース。「学校組織マネジメントの理論と実践」、「家庭・地域・学校の連携構築」の授業を主に担当。専門はコミュニティスクールの経営で、主な著書に『学校運営協議会導入による学校教育の改善過程に関する研究』がある。